廿八日夕刊

磐城新聞

休刊　大祭第一、第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料二行平錢（指定廿錢）
發行兼編輯印刷人　福島縣平町田町拾六　運沼龍輔
發行所　磐城新聞社　電話五六四番

或る炭山の麓の人々（四）

（此の一篇を北海の友に送る）

福田將夫

空から雨は霧れて、曇つてはゐるが空は底明りがして來て、大きな白樺の幹が銀泥を塗つたやうに先つてゐる。仕事が休みで雨がれるとなると、坑夫等は急谷へ歸つて來た。疲れ切つた体を天幕の入口に投げ出して煙草を吸ふ、この時だけは十五日と終りの日より天幕から自分の用事では出られぬことになつてゐる。從つて用事もこれからの先きの用事に就て、天幕内の爲と自分と仕事の爲めの用事との型が定つてゐた。

後廻りになる奴は巧い口實がないので、勝手な理窟を付けて町へ行こうとする。どうも鬚が延びると氣持ちが悪いんですが』鬚は延びる。

「これからは皆そんなにしゐて働くんだから……」

採鑛の技手が言ふ

「氣持ちが悪いのを我慢しましたら、身体の共合が何うも變ですから、醫者へ行つて……」

「鬚は三十一日に行つた時せい、後幾日もないぢやないか、體が悪いなら途中も心配だ藥をやるから」

餘り皆に出られると夕飯の仕度をする奴がゐなくなるもんだから、わざと親切らしく言つてる……

「何アに町へ行くんなら大丈夫です」

吹き出すにはゐられない。人間が何か一つの事にばかり夢中になると妙に子供のやうになつたり、馬鹿な事を言つたりするものだ坑夫も枝手も笑つて結局丼度丈け特に謝すから良く働いて呉れ、といふやうなことで急が付いた。

荒くれ男でも天幕の内に約一週間もゐると、人が戀しく町が懐しくなるらしい天幕の入口の席が揚げてあるので秋らしい丘が眞向に見える。底の知れぬ碧い一帶の丘の上に見えた僕は腹這ひになつて煙草を吸ひながら見詰めてゐる終日足を水に浸して澤を渡つてゐて、太陽が天幕の裏山の背に沈み込んだころつたが、白樺の林の中を抜けて國道に續く淋しい路を通り手を合せて拜み奉るからの、濟まねえがウンと言つて呉んな」

ぐわえん頭の音五郎は白宅の二階で娘のお君を必死と說きつけてゐる。それは恰度虎婆さんの來た翌日の朝。

「可厭なことをた言ひでないよ、爺さん、那箇お金の義理に詰つたからと云つてそのかたに娘を差上げますと證文に記入込みやアしまいし、そんな詰らないことを爲なくたつて可いぢやアありませんか、私はいやですよ、えゝ何と言つてもいやなことはいやだわ」

表は格子窓の裏明き左右が壁の低い天井、ごだ〜と積重ねたつゞらや瓦落多道具を背にしてた君は親と對座になりながら、こんなに頑ね申すんだ、こう此

……お妾なんぞ餓ゑ死んだ方が勝しだわ」

た君必死で拒んでゐる。

涙まじりの顫ひ聲で

「それ、それだから話せねッてんだ。た妾てねと安ッぽく聞へるけれど、其の實は御部屋さまだ、御部屋さまには昔から隨分偉えのがあるせ、ソウ太閤さまの淀君がいの一番で、次が東照權現さまをた產み申した傳通院さま、それも矢張た大の方と被仰るた部屋樓だ。それから將軍家頼朝公の御側も憚りなく義經ちやん〜と手放しでのろけだ御御前よ、その次が巴御前者なおめか……ぢやアねね奥樣になり損つた運の悪い人だちだ」

「だつて爺さん、だつてそ

僕は腹這ひになつて煙草を吸ひながら見詰めてゐる

僕の用事が出來て用事を訴へては出て行く。しかし月の

僕の一篇を天幕の入口に投げ出して煙草を吸ふ、この時だけは反響してゐた

叱言を言ふと反抗したりする力が、皆彼の飯の元になるんだと思はれて、何うしても心持ち良く食事が出來ない。

四五人の坑夫が一塊りになつて「明日は休みだから」と喋つ怒鳴りいし、合つたりして出て行を爲なくたつて可いぢやアありませんか、私はいやですよ、えゝ何と言つてもいやなことはいやだわ」

表は格子窓の裏明き左右が壁の低い天井、ごだ〜と積重ねたつゞらや瓦落多道具を背にしてた君は親と對座になりながら、こんなに頑ね申すんだ、こう此通り手を合せて拜み奉るからの、濟まねえがウンと言つて呉んな」

ぐわえん頭の音五郎は白宅の二階で娘のお君を必死と說きつけてゐる。それは恰度虎婆さんの來た翌日の朝。

「可厭なことをた言ひでないよ、爺さん、那箇お金の義理に詰つたからと云つてそのかたに娘を差上げますと證文に記入込みやアしまいし、そんな詰らないことを

千代かけて契らせ給ふ
秩父宮殿下の御婚儀
◆―平町の各種奉祝の催し

國民を擧げて御待ち申上げた秩父宮殿下と松平勢津子姫の晴れの御婚儀はいよ／＼今廿八日いとも嚴かに擧げさせられた、こゝ芽出度き御慶事は國民齊しく歡喜の裡に祝申上げてゐるが平町では早朝から全町に亘つて國旗を掲揚し心からなる祝意を表し此の日町有志等は縣社子鍬倉神社に參拜宮家の御安泰を祈り奉り縣立磐中、磐女及び各私立第一、第二の諸學校では全生徒を各校講堂に集めて奉祝に因める講話をなし尚在中會津人會では午後一時より岡町松ケ岡公園に集合して祝宴を催し宮家の萬歳を三唱して散會した

生れ植木職大友良藏（三三）が去月六日朝岡郡好間村大字上好間字田代原の山道において通行人である內郷村字御殿山居住同郡玉川村大字岩上生れ假名大杉助貞妻すみ（三九）に對し所持の手拭を以て女の咽喉部を締つけ金品を强奪逃走し同夜內郷村大字宮劇場磐城座にて活動寫眞見物中平署員に捕はれた犯件は平支部中谷豫審判事の手により審理中の處この程豫審終結決定明二十九日午前九時から平支部法廷において千葉裁判長係り武田檢事關與安齋辯護士列席の上第一回公判を開廷さるゝと

町民の赤誠を凝め
御慶事奉祝
けふ伏町平町長から
宮家へ奉祝電報

全國民が擧つて御待ち申上げてゐた皇弟秩父宮殿下と松平勢津子姫との御婚儀は今廿八日いと莊嚴ゝ執り行はせられたが此の日平町では此の御慶事を御喜びを御祝申上ぐる爲め平町長伏見午前九時から平町松ケ岡第二公園地內に於いて遙に御成婚の御祝宴の御安泰を祈り奉り縣立磐中、磐女及び各私立第一、第二の諸學校では全生徒を各校講堂に集めて奉祝に因める講話をなし尚在中會津人會では午後一時より岡町松ケ岡公園に集合して祝宴を催し宮家の萬歳を三唱して散會した

（電文）
謹ミテ秩父宮殿下御結婚ヲ祝シ奉ル
右言上ヲ乞フ
秩父宮別當山邊智春氏宛
謹ミテ勢津子姫御結婚ヲ御祝申上グ
松平（恒）家宛
同文
松平（保）家宛　以上
同此の御慶事の日本郡在住の會津縣人會では午後三時から平町松ケ岡第二公園地內に於いて遙に御成婚の御祝宴を申上げた外在中官公私立學校官公署に於いてもそれゝ祝意を表し奉つた

暴行痴漢の公判
あす平支部で

石城郡內郷村大字宮字宮の住宮城縣遠田郡沼部村

荷路夫の蛭田君が
青年代表の渡外
本縣青年團を代表して
來月三日に出發

日本聯合青年團主催、全國各府縣代表滿鮮北支視察團は費用百廿五圓の內、岡青年團より卅圓補助し應募中りしか本縣よりは名荷路夫村蛭田克（三五）氏が選拔されいよ／＼來月三日出發の筈であるが廿八日午後一時より岡八組合村は此の壯圖を祝し岡村小學校會場で送別會を開催し有志の祝辭等があり最後に蛭田氏の謝辭村田氏の謝辭村田氏の謝辭村